サンガカップ 第40回 京都少年サッカー 選手権大会

来月4日 決戦

紫光　西京極

21日、城陽市のサンガタウン城陽で準々決勝4試合と準決勝2試合が行われた。

準決勝では、紫光が2―0で城陽を破り、2年ぶりの決勝進出を果たした。前回優勝の西京極は2―1で大宅を振り切って連覇に王手をかけた。

紫光は前半、吉田遥海選手（6年）のボレーシュートで先制し、すぐに西垣拓見選手（6年）のヘディングで追加点。堅守で無失点に抑えた。西京極はゴール前の混戦で石渡ネルソン主将（6年）が押し込み、後半は平山瑛大選手（6年）のロングシュートで加点。終了間際に本大会初失点を許すも、逃げ切った。

決勝は2月4日午後2時から、3位決定戦は午後0時30分から、いずれも西京極陸上競技場（京都市右京区）で行われる。（井上広俊）

▽準々決勝　紫光5―0比叡、城陽3―0トライル、大宅1―0向日市W、西京極1―0久御山A

▽準決勝　紫光2―0城陽、西京極2―1大宅

紫光―城陽　ドリブルで攻め上がる紫光の安藤選手(10)―城陽市・サンガタウン城陽

2年ぶり舞台

組織的守備 武器に

過去18度の最多優勝を誇る紫光は2年ぶりに決勝へ進んだ。今冬の全日本少年大会にも出場して勢いがあり、頂点へ向けて堅実な戦いを誓う。

個々の選手の能力は高く、今大会は準決勝まで計22得点と大量得点で勝ち上がった。それ以上に力を入れるのが、相手に素早く寄せてプレッシャーをかける組織的な守備。長谷川佳弘監督は「ハーフコートで戦う意識を持ってきた」と自陣に入り込ませないように心掛けてきた。

「選手たちは、体が大きくなってきて技術が伴ってきた」と長谷川監督。決勝の舞台でのさらなる成長を期待する。山野太陽主将は「絶対に勝つ。早い時間帯に点を取って、しっかり守りたい」と意気込んだ。

2年ぶり19度目の優勝を目指す紫光の選手

目指すは連覇

粘りの攻撃 持ち味

大宅―西京極　後半、シュートを放つ西京極の小野選手

連覇を狙う西京極は、準決勝まで1点差の試合を3度制してきた。昨年初優勝した時の出場メンバーが3人残り、豊富な経験を生かして決勝を戦う。

運動量が多く、ハードワークで守り抜くチーム。攻撃力はそれほど高くはないものの、大森公裕監督は「少ないチャンスをものにできる、粘り勝ちする攻撃が持ち味」とチームの特徴を語る。

本年度は全日本少年大会京都府大会、平和堂カップと主要大会でいずれも決勝で敗れている。紫光は全日本少年大会決勝で0―2で敗れた相手だ。

DF2人が出場停止という苦境に立つが、得点源の石渡ネルソン主将は「絶対に勝ちたい。周りを生かしながら自分のプレーも出していく」と気合を込めた。

連覇を狙う西京極の選手たち